～教員おすすめ本～ No. 8

法学部　教養・基礎教育部門
高橋　梓

『テレーズ・デスケルウ』

フランソワ・モーリアック 著 ; 遠藤周作 訳

【先生からのコメント】

今年話題の映画『沈黙』の原作者である遠藤周作は、２０世紀フランスの文学者フランソワ・モーリアックから多大な影響を受けています。遠藤が『沈黙』執筆と同時期に翻訳をしたのが、本書『テレーズ・デスケルウ』です。

ボルドーで平凡な夫婦生活を送る女性テレーズが、さしたる理由もなく夫の毒殺を試みるという物語を読むことで、容易に悪に染まってしまう人間の本質をうかがい知ることができるでしょう。救いのない作品ですが、日本人とキリスト教の関係を考え続けた遠藤ゆえのポジティヴな解釈が訳文に反映しています。皆さんは気づくことができるでしょうか。

『さりながら』

フィリップ・フォレスト 著 ; 澤田直 訳

【先生からのコメント】

現役のフランス人作家フィリップ・フォレストの小説のタイトルは、「露の世は　露の世ながら　さりながら」という小林一茶の俳句が元になっています。

実の子を亡くした「私」は、同じく子どもを亡くした小林一茶、夏目漱石、そして原爆投下後の長崎で幾人もの子どもの死を目撃した山端庸介の人生に想いを馳せながら、己の内面と向き合います。作品には阪神大震災の悲劇も描かれます。生と死をめぐり、フランスと日本の精神が見事に響きあう本作は、異文化理解の本質を垣間見せてくれるでしょう。

2017 年 4 月 7 日
近畿大学中央図書館